

アジア視察報告＜１６＞

視 察 項 目	経済産業施策について
視 察 日 時	2024年10月28日（月） 午前11時00分～12時00分
視 察 先 名	深圳国際会展中心
説 明 者	阮耀庭（深圳国際コンベンションセンター職員）
担 当	末永 直

【はじめに】

深圳国際会展中心（国際会議場や見本市会場。以下、国際展示場）は、国内外から人や企業が集まり、ビジネスや交流、情報発信の場として多くの役割を担っている。

国際展示場は、企業が新製品や技術を発表し、バイヤーや業界関係者と直接コミュニケーションを図る場として非常に重要であり、ここでの交流を通じて、新しいビジネスの機会が生まれることが多く、取引の拡大や新しい提携が生まれる。また、国際的な競争力の向上にも寄与する。

相乗効果として、展示会や会議に参加するために、国内外から多くの人が訪れるため、開催地の観光や宿泊、飲食、交通等、地域の経済効果が見込まれる等、地元経済を活性化させる重要なインフラにもなり得る。その他、雇用の創出や技術・知識の向上、文化・産業の発信等、国際展示場はビジネスから文化発信、地域経済の振興まで多方面にわたる重要な役割を果たしており、多くの国や都市が積極的に整備や拡充を行っている。

国内で有名なのは東京ビッグサイトや幕張メッセであろう。なお、日本国内最大規模の国際展示場である東京ビッグサイトの総敷地面積は約316,990㎡。

一方で、本市においては川崎市コンベンションホールがあるがその規模に関しては上記のそれと比ぶべくもない。そうは言っても、アクセスの良さや施設の充実により、地域経済の活性化やビジネス交流の促進を通して産業の発展を目指す姿勢においては負けてはならないと考える。

今回視察した深圳市のコンベンションホールは世界一とのことであり、規模的には到底及ばないが、視察することは取組を活かし得るという点で本市の発展に資するものだと考え、視察を行った。

【国際展示場の概要】

この度視察した深圳国際会展中心
(Shenzhen World Exhibition & Convention Center) は、中国の深圳市宝安区に位置する大規模な展示・コンベンション施設である。国際展示場一体の総面積は、160万㎡、東京ドーム約25個分に相当する。日本の大都市の区域やテーマパークと比較しても非常に広大な範囲になる。重複するが、世界最大級の展示センターだ。室内の展示スペースは約50万㎡。施設構成としてメインの展示ホールや多機能会議室、カンファレンスセンター、商業・オフィスエリア、レストラン及びホテル等からなる。



宴会場 広さが一目瞭然

詳細は添付したパンフレット内容を参照されたい。

【主な調査内容】

本視察では、国際展示場の概要や運営状況、ICT化等について説明があった。

視察団が16もの標準展示ホール及び会議センター、イベントセンター等の主要施設へ移動する際は、専用カートに乗車し、移動した。それほどまでに広大であるということだ。

各展示場等の広さ等については、いただいたパンフレットに詳しく記されており、日本訳したものと併せて添付する。

駐車場は地上と地下のものがあり、14,000台停められるスペースがある。その10%、1,400台分の電気自動車の充電設備があるという。深圳市では電気自動車のナンバープレートは薄い緑色になっていて、電気自動車であるかどうかは一目瞭然だ。街中で見ると半分は電

気自動車だったような印象を持ったが、10%分というのはさほど多くないのだと思われる。意外だった。

当日、飴と酒の展覧会の開催に向けた準備をしている様子だった。展示ホール9号館を視察したところ、吊り下げのリフティングポイントがあり、聞くと1トンのものを上げ下げできるとのこと。加えて興味深かったのが、火を使用していいということだった。

また、この広大なエリアをつなぐICTの利活用の仕組みには驚かされた。Wi-Fiが飛んでおり、中国の大手インターネット企業であるテンセントが運営する無料のメッセージアプリのWeChatとつながっている。これを利用して、各飲食店に食事等を注文できるようになっているという。加えて、可視化センターの特大大モニターで各施設の状況等が一目瞭然になっており、会議の設備状況等、諸々の基本情報を把握できる。本センターから駐車場とつながり、車の進出等指示ができ、安全運営を調整できるとのこと。



全体模型を見ながら説明を受ける視察団

【質疑・応答】

Q 1 : 世界で何番目に大きいか。

A 1 : 展示面積約50万㎡で、世界最大級の展示・コンベンション施設として位置付けられている。開業当時は世界最大規模とされており、同等の規模を持つ展示センターは限られている。



広大なホール

Q 2 : 待機スペースの広さは。

A 2 : 待機スペースを含む支援施設の総面積は約642,000㎡。このスペースには、会議室、オフィス、飲食施設、倉庫等が含まれ、利用者の利便性を高めるためのさまざまな機能が配置されている。また、地下には約563,000㎡の駐車場も整備されている。駐車場ではEV充電設備もある。約14,000台停められる。

Q 3 : 会議室はいくつあるか。

A 3 : 約150の会議室とVIPルームが備えられている。さまざまな規模や目的に対応したイベントが可能で、展示会や会議参加者に多様なスペースを提供している。

Q 4 : 飲食スペースの特徴は。

A 4 : さまざまなオプションとユニークなテーマを提供している。施設内の主要な飲食エリアには、「Kitchencraft」というオールデイダイニングがあり、地元と西洋料理を融合させたメニューをライブキッチンで楽しめる。また、カジュアルでモダンな「NoDu」では、手作りの麺と餃子を提供し、活気あふれる雰囲気です。ロビーラウンジでは、終日高級

なカフェスタイルの軽食やカクテルを提供し、友人とのティータイムやイベント後のドリンクに最適。「Qing Ya」では、中国の伝統的な文化を反映した本格的な中国料理とお茶を堪能でき、文化的なデザインが特徴。

Q 5 : メインエントランスの詳細について。

A 5 : 南エントランスと北エントランスがあり、各エントランスは地下鉄駅と直結して便利にアクセスできる設計。施設全体が500,000㎡以上の展示スペースと広大な中央コリドーを有しており、来場者の流れを効率化するための広いスペースが確保されている。これにより、多くの訪問者がスムーズに利用できる。

Q 6 : 一つ一つのホールの大きさは。

A 6 : 各ホールのサイズは、標準ホールで約20,000㎡。最大のホールは50,000㎡の広さを持ち、特に大規模なイベントや展示会に対応できる設計となっている。このセンター全体には19のホールがあり、広大なスペースが確保されている。各ホールは独立して使用できるだけでなく、必要に応じて連結して使用することも可能。ホールの床は、1㎡あたり5tまでの重量に耐えられる設計となっており、展示物や機械設備等を柔軟に配置できる高耐荷重床である。

Q 7 : 水道やガス、インターネットの接続状況は。

A 7 : 最新のインフラ設備が整っており、水道、ガス、インターネットの接続が非常に充実している。施設内では、高速かつ安定したWi-Fiと通信環境が提供されており、同時に最大12万人が利用できる高密度Wi-Fiシステムが導入されている。また、HuaweiとTencentによるスマートビルディング技術の協力により、利用者はWeChatを介して館内サービ

スにアクセスが可能。水道設備も環境に配慮されており、建物全体で雨水収集システムが使用されている。また、エネルギーや資源の効率的な利用を目的としたグリーン建築認証も取得予定。これらにより、来場者や展示主催者に最適な利便性と持続可能なサービスが提供される。

Q 8 : plenary hall の特徴は。

A 8 : 主に大規模な会議や講演、ショーに対応できる設備が整っており、1,741席を備えたステップ式の講堂。音響や照明等の設備が充実しており、専門的なイベントや劇場公演にも適している。また、シームレスな視界を確保するため、柱のないデザインがされており、大規模なプレゼンテーションやパネルディスカッションに最適。



可視化センターの様子



可視化センター全体写真

【総括】

国際展示場が途方もなく広大であることのみならず、それを中心としたまちづくりにこそ価値があると言える。地下鉄2路線ならびに地下鉄口の設置等の利便性の良さ、大手外資を呼び込んだ飲食エリア、マンションや一流ホテル等がその周囲に設けられ、国際展示場を中心として大きなまちがつけられている。いかんせん航空機も展示できる世界で最も大きい展示ホールには度肝を抜かれた。日本のそれとは規模が段違いだ。

大変魅力的である。本市には、国際展示場はないのだが、将来的には

J F Eの跡地活用等、臨海部の発展に向けて、国際展示場を設けてその周辺まちづくりを行い、インバウンド対応等の取組を行っていても面白いのではないだろうか。

個人的な所感だが、宴会場は6,600㎡とのことだったが、感覚としていまいちピンとこなかったもので、走ってみたところ、サッカーコートまるまる入っていてもおかしくないぐらい広いように感じた。なお、F I F Aが推奨する標準サイズは105m×68mとのこと。現地にて肌感覚で味わうことは大事である。



菓子と酒の展示準備の様子



カートにて移動

以下、入手したパンフレット画像を添付



深圳国際会議展示センター
コンベンションセンター
深圳国際公園中期

深圳国際会議展示センター

深圳世界
世界クラスの展示会に最適な舞台

深圳国際会議展示センターは、広東・香港・マカオ大湾区の中核エリア、広州・深圳・香港の中核開発回廊の東西開発回廊の交差点に位置し、広州・仏山・肇慶、深圳・東莞・惠州、竹中江の三大都市圏の交差点であり、将来の深圳経済と広東・香港の経済中心地域を発展させる。マカオ大湾区。



深圳国際展示場センター

深圳世界展示コンベンションセンターは、深セン市政府が投資して建設した大規模なプロジェクトであり、広東・香港・マカオ大湾区のランドマーク的な建物であり、深圳の総合的な発展の重要なプラットフォームです。(中略)

深圳国際展示場センターのプロジェクトは 2016 年 9 月に完成し、2019 年 11 月に操業を開始した。プロジェクトの第一段階の面積は 121 万 4000 m²で、総建設面積は 121 万 4200 m²。(中略)

超大型展示ホール No.17 展示ホールの面積は 50,000 m²、長さ 210m、幅 249m、高さ 18 m で、地耐荷重は 5 トン/m²です。(中略)

総面積 51,000 m²のケータリング施設を備え、さまざまなケータリングサービスを提供しています。展示ホール 1~17 の 2 階中央通路から離れたところにテイクアウトコーナーがあり(中略)



五次元輸送 航空展示ホールは深圳宝安空港の T3 ターミナルから 7 km 北に位置し、T4 ハブからはわずか 3 km の距離にあり、香港空港に隣接しています。延江高速道路の近くにあり、「国際会議展示センター」と「福海」料金所の出口を通過して展示ホールに直接アクセスできます。地下鉄 12 号線と 20 号線が展示ホールの南と北のエントランスホールに接続しており、深セン市内と空港との間を素早く移動できます。福永棧橋の近くにあり、棧橋から香港空港までボートでわずか 40 分です。広州・東莞・深圳都市鉄道は、珠江デルタ地域の商店が展示会場まで往復するのに便利は条件を提供しており、展示会場から「福海西駅」まではわずか 1 km です。

深圳国際会議展示センター周辺の包括的な支援プロジェクトの建設面積は 154 万 m²で支援施設には産業本部、商業センター、国際的なホテルグループ、営業所、プティックアパート、ハイラインが含まれます。公園等の多様な複合業態が融合し、世界有数の国際展示都市を形成。(略)



コンベンション&エキシビジョンガーデンシティは、中国商工社蛇口は OCT が共同で建設した当該エリア最大の商業センターで、面積は 19 万 m² (地上 6 階地下 2 階) です。このプロジェクトは、ハイエンドのケータリングやエンターテイメント体験等の新興ビジネスフォーマットを備え、ファッション小売体験、理想的な生活施設、アートとエンターテイメントの集い、ワンストップの食とファッションの旅の 4 つの主要機能を統合。

(中略) 2023 年、深セン国際会議展示センターでは年間を通じて 67 件の展示会が開催され、総展示面積は 580 万 m²を超え、81 件の独立した会議イベントが開催されます。展示会の数、規模ともに過去最高を記録した。

ハイテクフェア 40 万 m²
 チャイナプラス 38 万 m²
 深センギフトフェア (秋) 26 万 m²
 CIBF バッテリーショー 24 万 m²
 飲食 22 万 m²
 自動車部品展示会 21 万 m² 等